

今後の接続用ソフトウェアの開発について

2001年7月26日
東日本電信電話株式会社
西日本電信電話株式会社

今後の接続用ソフトウェアの開発について

接続用ソフトウェア 開発期間につきましては、今まで、平成8年度着手分からは21ヶ月以内、平成9年度着手分からは18ヶ月以内とその短縮に取り組んでまいりました。

接続用ソフトウェア：接続約款21条第2項(2)に規定されるソフトウェア

今回、他事業者様からの御要望等をふまえ、他事業者様の接続用ソフトウェア開発要望及びNTTの網機能提供をできるだけ早期に実現するため、接続用ソフトウェア開発期間を、試行的に平成13年7月着手分から12ヶ月以内 とさらに短縮いたします。

ご要望の内容、難易度等により12ヶ月以上かかることもあり得ます。

しかしながら、弊社開発分ならびに他事業者様御要望分ともに、電話系ノードのソフトウェア開発量が激減している動向をふまえますと、開発項目あたりの費用が増大する可能性もありますので、平成14年7月着手分以降の接続用ソフトウェア開発においては、弊社を含め電話系各ノードにおける具体的な開発要望の状況を確認しながら、開発着手回数の変更（年2回から1回へ）や開発体制の縮小等の抜本的な見直しを検討してまいります。

（具体的なスケジュールについては、次頁を参照願います。）

今後の接続用ソフトウェアの開発について

